

世田谷移転一〇〇年を迎えて

国士館史資料室室長 飯田 昭夫

「令和」という新時代が幕を開けた本年、国士館は創立一〇二周年を迎えた。

一九一七（大正六）年、麻布区筈町（現港区南青山）に創立した国士館は、その二年後、国士館の教育理念を体现する理想的な環境を求め、建学の地・麻布から世田谷へ移転した。本年は、一九一九年の世田谷キャンパス開設から一〇〇年という記念すべき年にあたる。新校地の世田谷は、吉田松陰を祀る松陰神社に隣接し、「大正維新の松陰塾」を掲げる国士館の教育環境として好適地であった。本学は、吉田松陰の「松下村塾」が近代移行期に活躍する人材を多く輩出し日本の近代国家形成に貢献したように、世田谷の地で一世紀にわたって、次世代の社会を担う学生生徒の育成に努めてきた。

創立期から残る唯一の建物である「国士館大講堂」は、世田谷キャンパスの中央に位置し、本学のシンボルとして歴史と建学の精神を今日に伝えてきた。大講堂は、二〇一七（平成二九）年に国登録有形文化財（建造物）となり、昨年から参加する「東京文化財ウィーク」での公開などで、学外の方々にも文化財としての価値を感じていただけることになった。さらに本年は、創建一〇〇年を記念して「大講堂パンフレット」を作成した。

本誌『楓原』第一一号には、世田谷移転一〇〇年を記念して、創立記念展「世田谷と一〇〇年」の内容を再構成して口絵に掲載した。また「国士館の思い出」として、文学部六期生の斉藤賢三氏に回顧記をお寄せいただいた。本法人監事の今福康夫氏には、創立期から現在に至る国士館の財務状況を概観していただいた。

現在も継続編纂中である『国士館百年史 通史編』の作業は、膨大な資料や原稿の整理をはじめとして、特に専門委員会の先生方の多大なるご労苦のもとで全力をあげて取り組んでいる。刊行まであと一歩という階段に差し掛かっており、関係各位の更なるご協力ご支援をお願い申し上げる。

二〇二〇年三月吉日